

2000. 11. 5号

NEVER...

編集: 関東大学サッカーリーグ戦加付制作委員会 印刷: 関東大学サッカー連盟

11/5(日) 1部 - 2部入替戦

12:00 KICK OFF

日本体育大学

(1部リーグ8位) VS

青山学院大学

(2部リーグ1位)

14:00 KICK OFF

慶應義塾大学

(1部リーグ7位) VS

東海大学

(2部リーグ2位)

入替決定方法

日体大(1部8位)VS青学大(2部1位)

[日体大の勝ち]

日体大は1部、青学大は2部に残留

[青学大の勝ち]

日体大は2年振りの2部降格

青学大は10年振りの1部昇格

[引き分け]再試合(日時、会場とも未定)

[再試合・再度引き分け]それぞれ残留

慶應義塾(1部7位)VS東海大(2部2位)

[慶應義塾の勝ち]

慶應義塾は1部、東海大は2部に残留

[東海大の勝ち]

慶應義塾は4年振りの2部降格

東海大は8年振りの1部昇格

[引き分け]それぞれ残留

1部リーグへの再挑戦は、またも厳しい結果に終わった。2分5敗…失点は20を数え、1勝はおろか1点が遠かった。

2部リーグから1年で1部復帰を果たした昨年のメンバーがごっそり残った今年は、密かな自信を持って臨んだはずだった。その証明に、開幕戦で挑んだディフェンディングチャンピオンの筑波大に対し、0-1で敗れたものの王者を自分たちのサッカーに巻き込んだ。不運だったのは、与えた唯一の点がオウンゴールだったこと。“ある程度は抑えられた”という意識が緊張感を緩ませてしまったのか、次節で東学大に前半から猛攻を受けて4失点。結局0-5と打ち崩された自信は、3節も0-5、4節では0-7と、立て直す間もなく失点を重ねるばかりだった。2部との差は一つ一つのプレーに対する判断の速さ。わずかな判断の遅れにつけ込む相手のプレッシャーを受けてミスが続発し、自滅してしまう試合が続いた。

それでも、守備面の修復を徹底して臨んだ5~7節では計2失点と、ようやく本来のリズムをつかみつつある。「失点が多くて強気になれなかった部分も、(下が見えて)勝つしかない状況になって切り替えられた」(GK道本主将)。日体大らしい身体を張った守備も戻ってきた。調子は上向きと見ていだろう。あとは、3枚のFWを擁し攻撃力のある青学大に対してどう戦うかだ。入替戦における粘りの守備には定評のある日体大だが、先制点を許して攻撃へ出ざるを得なくなるとリスクも増える。守りにいくよりイーブンの状態から攻撃を仕掛けたい。FW金杉へいいボールが出れば破壊力はある。FW須田のゲームメイクと、MF岡松の攻撃参加が攻撃面のキーポイントだ。

日本体育大学

最近4年間の成績

- '97 1部リーグ8位(5敗2分)
→入替戦 VS 青学大
1-1、再試合4-2で残留
- '98 1部リーグ8位(6敗1分)
→入替戦 VS 東学大
0-1で敗退し2部降格
- '99 2部リーグ2位(5勝2敗)
→入替戦 VS 明治大
4-3で勝利し1部昇格
- 2000 1部リーグ8位(5敗2分)
→入替戦 VS 青学大

	金杉	須田	
	大歯	横溝	
岡松	鈴木	出浦	
沼田	生山	石井	
道本			

日本体育大学 VS 青山学院大学

7試合を通して安定した力を発揮し、3年振りの2部優勝を成し遂げた青学大。特に5~7節の後半3試合で8得点と、今季掲げた攻撃サッカーがより完成に近づいた状態での入替戦挑戦となる。

開幕戦は日大に4-1と大勝したものの、2節は0-0、3節は1-0、そして4節で1-2と、なかなか得点を奪えない試合が続いた。3-4-3というシステムを組み“攻撃力のチーム”というイメージが強いが、今リーグでは、苦しんだ前半戦での守備力が優勝への原動力になったと言える。「点を取れなくても、守備が安定していたから余裕を持って対応できた」(上倉監督)。前線からのチェックを徹底し、数的には少ない3枚のDFがそれぞれ高いカバーリング力を見せた。ポイントとなった5節の東農大戦でも、攻め込まれた前半の守備での我慢が、前半ロスタイムでの先制点を呼んだ。怖いのは、相手の中盤を省略して蹴り込んできた時だ。攻撃面では、スピードと運動量のあるFW小谷の動きに注目。高橋、村山を含めたFW3枚は積極的なポジションチェンジを繰り返すため、どこから顔を出すかわからないのも相手DF陣にとって脅威だ。

現4年生が1年生だった3年前の優勝時も、入替戦の相手は日体大だった。再試合を含め2試合とも先制点を奪いながら、昇格はならなかった。何人かの技術の高い選手が目立った当時のチームと違い、今年のチームは技術的にも戦術的にも“全員サッカー”。各々にフォローの意識と体制が整っており、攻守ともに厚みがある。昨年2部リーグで対戦した時は1-3で敗れているが、青学大のシステムが違うため日体側の戸惑いの方が大きいだろう。3度目の正直、なるか。

青山学院大学

最近4年間の成績

- '97 2部リーグ1位(6勝1敗)
→入替戦 VS 日体大
1-1、再試合2-4で残留
- '98 2部リーグ5位(3勝3敗1分)
- '99 2部リーグ4位(3勝2敗2敗)
- 2000 2部リーグ1位(5勝1敗1分)
→入替戦 VS 日体大

	高橋	村山	小谷
		北村	
大関	伊藤	神山	
古寺	松野	吉岡	
小澤			

開幕2連勝を収め、1部3年目にして上位進出が期待された慶應大だったが、3節で筑波大に0-4と大敗してからは4連敗と、リーグ中盤で息切れしてしまった。惜しくも6位・駒澤大に得失点差で屈しての入替戦出場だが、3節以降の5試合で1得点では、持ち前の粘りの守備をもってしても勝利は遠かった。

先制を許した駒澤大との開幕戦は、ビハインドを背負いながらも最後まで集中力を切らすことなく徐々にペースをつかみ、残り15分を切ってから2点を奪って逆転勝ち。2節でも中央大に2-0と快勝し、続く筑波大戦も前半は0-0と互角の戦いを見せたが、後半の立ち上がりにはPKとコーナーキックから立て続けに失点して崩れ、最終的な得失点差に響く4失点を喫してしまった。リーグ後半は、攻撃のキーマン・MF戸塚主将の4節での負傷が痛かった。相手に押し込まれながらも守備で粘って反撃の機会を待ち、少ないチャンスを実際に得点に結びつけるのが慶應の持ち味。しかし、MF戸塚の負傷によって左サイドからの得意の攻撃力が発揮できず、変化の少ない攻撃に終始してしまった。「絶対的に勝てないという試合は少なく、いい意味の自信はつけたと思う。ただ、点を取るという一つのハードルが高かった」(大石監督)。何をあいても、中盤から前線のFW玉田・槻木ヘタイミングのいいパスを供給したい。

脅威的な集中力を持ち、後半途中からでも力を発揮できるチームの慶應義塾。近年の入替戦では、失点を最小限に抑えて少ない点数で残留を続けてきた。前半を0-0で凌げれば勝機は見えてくるが、東海大FW陣のスピードには注意したい。

慶應義塾大学

最近4年間の成績

- '97 2部リーグ2位(4勝2敗1分)
→入替戦 VS 早稲田大
1-0で勝利し1部昇格
- '98 1部リーグ7位(2勝4敗1分)
→入替戦 VS 日大
1-1の引き分けで1部残留
- '99 1部リーグ8位(2勝5敗)
→入替戦 VS 東農大
1-0で勝利し1部残留
- 2000 1部リーグ7位(2勝4敗1分)
→入替戦 VS 東海大

玉田	槻木		
	浜出		
戸塚	畠出		
	渡辺		
大島	岩間	古川	山口

元木

慶應義塾大学 VS 東海大学

5年振りの関東2部リーグで準優勝、1年目で1部への挑戦権を得た東海大。流経大に大勝して昇格を決めた昨年のチームとは、システムを異にしながら“まず守備を安定させる”というベースを引き継ぎ、関東選手権3位、総理杯優勝と春から旋風を起こした。リーグ前半は2分1敗と苦しんだが、後半4連勝して自力を証明した。

春・夏に実績を残したチームも秋はなかなか勝てないと言われるが、それはトーナメントとリーグ戦では違う意味の実力と精神力が必要とされるから。開幕2連続引き分けから初黒星を喫した3節・青学大戦後、今川監督は「トーナメントと違う難しさ、引き分けたり負けたりしながら次の試合へ向かわなければならぬしんどさがある」とこぼした。そして同時に、「残り4試合で、関東リーグでやれる力があるかどうか試される」とも。結果的に、崩れるか踏みとどまるかのターニングポイントだった4節・東農大戦は試合終了4分前にMF大塚のミドルシュートから勝ち越し点を奪い、その1-0の勝利をきっかけに完全に安定感を取り戻し、最終節で優勝を狙えるという位置まで順位を上げた。「自力優勝は難しくても、4勝しておけば何が起るかわからないから」というこの時点での大塚の言葉をはじめ、どんな状況でも“優勝”という目標を見失わなかったゆえの準優勝だろう。

ベストイレブンに輝いたDF岸を中心に安定した守備は、“積極的な守備”と今川監督が称するように、常に次のプレーを攻撃へつなげることを意識している。その通り、守備から攻撃に移った時のスピードは脅威だ。MFには関根・梶山・大塚と、ラストパスを出せる選手が揃っている。昇り調子のFW陣、迫田・坂本・吉谷らに期待したい。

東海大学

最近4年間の成績

- '97 神奈川県リーグ1位(5勝1分)
関東大会準優勝で都県2位
→入替戦 VS 東農大
2-2で引き分け神奈川残留
- '98 神奈川県リーグ2位(4勝2敗)
- '99 神奈川県リーグ1位(5勝1分)
関東大会優勝で都県1位
→入替戦 VS 流経大
4-2で勝利し関東2部昇格
- 2000 関東2部2位(4勝1敗2分)
→入替戦 VS 慶應義塾

迫田	坂本		
梶山	関根		
大塚	小倉		
沼倉	佐野	岸	平良

吉川

JR東日本カップ2000 関東大学サッカーリーグ戦

1 部	筑波大	東学大	中央大	国士大	順天大	駒澤大	慶應大	日体大	勝	負	分	得点	失点	得失	勝点
1 筑波大		2○1	5○0	3○1	1△1	0●2	4○0	1○0	5	1	1	16	5	+11	16
2 東学大	1●2		1●3	2○0	2△2	2○1	1○0	5○0	4	2	1	14	8	+6	13
3 中央大	0●5	3○1		1△1	2○0	2○0	0●2	1○0	4	2	1	9	9	±0	13
4 国士大	1●3	0●2	1△1		0△0	4○1	2○0	5○0	3	2	2	13	7	+6	11
5 順天大	1△1	2△2	0●2	0△0		1△1	2○1	1△1	1	1	5	7	8	-1	8
6 駒澤大	2○0	1●2	0●2	1●4	1△1		1●2	7○0	2	4	1	13	11	+2	7
7 慶應大	0●4	0●1	2○0	0●2	1●2	2○1		0△0	2	4	1	5	10	-5	7
8 日体大	0●1	0●5	0●1	0●5	1△1	0●7	0△0		0	5	2	1	20	-19	2

2 部	青学大	東海大	法政大	明治大	東農大	亜大	日大	早大	勝	負	分	得点	失点	得失	勝点
1 青学大		1○0	3○1	0△0	2○0	1●2	4○1	3○1	5	1	1	14	5	+9	16
2 東海大	0●1		4○0	1△1	1○0	4○2	2○0	2△2	4	1	2	14	6	+8	14
3 法政大	1●3	0●4		1△1	3○2	2○1	1△1	2○1	3	2	2	10	13	-3	11
4 明治大	0△0	1△1	1△1		2●3	1△1	3○0	7○1	2	1	4	15	7	+8	10
5 東農大	0●2	0●1	2●3	3○2		1△1	3○2	3○2	3	3	1	12	13	-1	10
6 亜大	2○1	2●4	1●2	1△1	1△1		1●2	1△1	1	3	3	9	12	-3	6
7 日大	1●4	0●2	1△1	0●3	2●3	2○1		1△1	1	4	2	7	15	-8	5
8 早大	1●3	1●2	2△2	1●7	2●3	1△1	1△1		0	4	3	9	19	-10	3

2部 都県入替戦

11月23日(祝) 於:西が丘サッカー場

12:00 KICK OFF

早稲田大学 VS 都県リーグ1位
(2部リーグ8位)

14:00 KICK OFF

日本大学 VS 都県リーグ2位
(2部リーグ7位)

◆関東大会◆ Aブロック

	桐蔭大	東洋大	立正大	埼玉大	勝点
桐蔭横浜大			0●2	10○0	3
東洋大			0△0	1●3	1
立正大	2○0	0△0			4
埼玉大	0●10	3○1			3

Bブロック

	国武大	専修大	流経大	國學院	勝点
国際武道大			1●2	3○0	3
専修大			1○0	7○1	6
流通経済大	2○1	0●1			3
國學院大	0●3	1●7			0

※各ブロック1位同士が11/12日12:00より中村旅館若の松G(予定)で決勝を行ない、優勝校が都県1位、準優勝校が同2位となる

2000. 11. 23号

NEVER...

編集: 関東大学サッカーリーグ戦カメラ制作委員会 印刷: 関東大学サッカー連盟

11/23(木) 2部-都県入替戦

12:00 KICK OFF

早稲田大学

(2部リーグ8位) VS

立正大学

(都県リーグ1位)

14:00 KICK OFF

日本大学

(2部リーグ7位) VS

専修大学

(都県リーグ2位)

入替決定方法

早稲田大(2部8位) VS 立正大(都県1位)

[早稲田大の勝ち]

早稲田大は2部、立正大は東京都1部に残留

[立正大の勝ち]

早稲田大は初の東京都1部リーグ降格

立正大は16年振りの関東2部リーグ昇格

[引き分け] 再試合(日時、会場とも未定)

[再試合・再度引き分け] それぞれ残留

日大(2部7位) VS 専修大(都県2位)

[日大の勝ち]

日大は2部、専修大は東京都1部に残留

[専修大の勝ち]

日大は初の東京都1部リーグ降格

専修大は3年振りの関東2部リーグ昇格

[引き分け] それぞれ残留

3年前の入替戦で慶應大に敗れ、チーム史上初めて関東2部リーグに降格していた早稲田大が、今季は2部で1勝もあげられないまま最下位となってしまった。都県リーグとの入替戦出場はもちろん初。レギュラー陣も関東大会へ相手校のスカウティングに出かけ、万全を期して最後の勝負の場に立つ。

チーム状態が悪かったわけではない。混戦を極めた今季の2部リーグにあって、前半戦3試合の競り合いを勝ち切れなかったことで生じた精神面の焦りが、後半戦の4連敗を招いてしまった。リーグ戦直前の天皇杯東京都予選で、接戦を連続Vゴールやロスタイムでの逆転という好ゲームを演じて勝ち続けたことで、「過信した部分があったかもしれない」とMF吉田主将は言う。初戦の亜大戦はリードしながら89分に失点。2節の東海大戦は追いついた引き分けだが、やはり先制点を奪いながら逆転を許していた。「勝てる試合だった」(吉田)2試合をモノにできなかったのは、毎試合のように伊藤監督が嘆いたように、シュートがごとごとく正確性を欠いたことが一因。また、夏の早慶定期戦から頭角を現したFW柳が成長し、2年連続2部得点王のFW横山がマークされる裏で5得点と活躍したが、7試合とも失点しており攻守がなかなかかみ合わなかった。

守備型のチームである立正大との対戦となったこともあり、何としても先制点を奪いたい。後半に出場して攻撃のリズムを変えるスーパーサブ・MF上赤坂の起用法も一考の余地はある。相手の守備は厚いが、守備の後のセカンドプレーに甘さもあり、ルーズボールを狙えればシュートチャンスは多くなるだろう。

早稲田大学

最近4年間の成績

- '97 1部リーグ7位(1勝4敗2分)
→入替戦 VS 慶應大
0-1で敗退し2部降格
- '98 2部リーグ6位(3勝3敗1分)
- '99 2部リーグ3位(3勝1敗3分)
- 2000 2部リーグ8位(4敗3分)
→入替戦 VS 立正大

	柳	横山	
佐藤男			長澤
	吉田	青嶋	
廣川	細川	結城	秋山

小野田

早稲田大学 V S 立正大学

このところ、3年周期で関東リーグとの入替戦に挑んでいる立正大。前々回は東学大に引き分け、前回は東学大に再試合を含め2試合とも引き分けで昇格を果たせないでいる。今回も前回の入替戦を知っている学年が4年生になった今年、6度目の挑戦権を得た。

昨年・一昨年は、東京都1部リーグは優勝しながら関東大会で敗退。今年は、4年振りに都リーグ優勝を逃しながら関東大会優勝を奪還した。入替戦を経験している4年生が軸となるチームだが、秋山監督体制も今年が4年目。昨年からフィジカルコーチを招聘してきっちりとした年間計画を立て、寮には今年からラグビー部と合同の筋力トレーニングルームも完備してフィジカルトレーニングを強化したという。「前回よりも、今年は“挑戦”できるという感じを持っている」(秋山監督)と、4年間の集大成を見せるつもりだ。

チームカラーはとにかく堅実なチーム。失点が少なく、守備を固めてカウンターで得点を狙っていく。秋山監督も「あまり点を取るチームじゃない」と言うように得点力は課題の一つだが、その分守備に関しては我慢強さが備わっているのだろう。関東大会では初戦0-0のあと確実に勝利をつかみ、4試合を無失点でしのいだ。高さのあるDF山本(4年)とカバーリング能力が高いDF黄(2年)のセンターバックを中心とした守備は、中盤のフォローが良く厚みがある。個々の技術はまだ関東リーグの大学より劣るが、先制点を取れば、立正の形に持ち込める可能性が高い。カギを握る攻撃陣は、フィジカルの強さがあるFW平岩(4年)のほかMF浅野(2年)とMF可見(3年)のテクニクに期待が持てる。

立正大学

最近4年間の成績

- '97 東京都1部1位(5勝1敗)
関東大会優勝で都県1位
→入替戦 VS 東学大
1-1、再試合1-1で残留
- '98 東京都1部1位(4勝3分)
- '99 東京都1部1位(4勝2敗1分)
- 2000 東京都1部3位(4勝2敗1分)
関東大会優勝で都県1位
→入替戦 VS 早稲田大

	平岩	飯田	
浅野			上田
	安	瀧澤	
新井	黄	山本	高野

瀧本

日本大学

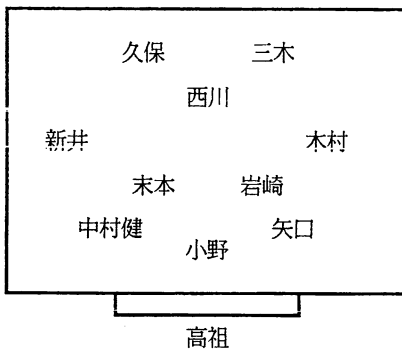
最近4年間の成績

- '97 2部リーグ3位(4勝2敗1分)
- '98 2部リーグ2位(5勝2敗)
 - 入替戦 VS 慶應大
 - 1-1で引き分け2部残留
- '99 2部リーグ5位(3勝3敗1分)
- 2000 2部リーグ7位(1勝4敗2分)
 - 入替戦 VS 専修大

日大が最終節まで最下位を走り続けるとは、誰が予想しただろうか。1995年と96年に2年連続で都県リーグとの入替戦を経験して以来の低迷。初戦で青学大に4失点してつまずき、システムやメンバーを変え応急処置を施したが、最後までリズムをつかめなかった。

開幕戦で4失点したのは昨年のリーグと同じ状況だ。しかし、今年は昨年のような粘り強さが見られずじまい。大量失点での敗戦のあと、2節では一時逆転しながら再逆転を許し、3節では先制の直後に一瞬の隙を突かれて同点弾をくらった。システムを4バックから3バックに変更し、相手のマークを回避するために左サイドに配していたMF中村直を中央のトップ下へ戻したが、やはりマークが集中し、周囲とのコンビネーションもままならず日大らしい攻撃力を発揮することができなかった。高さのあるFW久保を外して運動量の多いFW白井を起用したり、MF中村直をFWの位置に上げてパスセンスのあるMF林田をトップ下で出場させたりと試行錯誤を重ねたが、入替戦出場が決まっていた最終節を「守備のバランスを崩さないため」(磯田コーチ)のメンバー構成でようやく初勝利。最下位を抜け出した。入替戦には最終節の形を基本として臨むという。

2年前まで同じ舞台で戦った専修大とは、お互い良く知った間柄。中村直と専修DF鶴沢・FW斑目、DF矢口と専修FW上原という高校の同級生対決も注目だが、双方とも3バックで左右のウイングが積極的にチャンスメイクするというタイプも似ている。接戦が予想される中、勝負の分かれ目は決定力と積極性。下位との入替戦を知らない現役生が、どのように関東2部の意地を見せるだろうか。



日本大学 VS 専修大学

2年前、流通経済大に敗れて東京都1部リーグに降格していた専修大が、ようやく入替戦の場に立つ。市立船橋、清水商などの実力校やJクラブのユースチーム出身者も多い専修大だが、それでも都リーグから関東大会を経て入替戦挑戦権を得るまでの道のりは長かった。昨年は、初の都リーグにおいて土のグラウンドでのゲームと実力差のあるチームとの対戦に戸惑いを隠せず3位、規程で関東大会には出場したものの予選で敗退した。ただ、東京都予選を勝ち抜いて出場した天皇杯で3回戦まで勝ち進み、清水エスパルスと互角に戦ったことが、今年に向けての大きな自信となったようだ。

都リーグ7試合で18得点と、基本的に攻撃力で勝っていくチームカラーは2年前までと変わっていない。加えて「失点が少なく、崩れないようになった」とDF鶴沢主将(4年)が言うように、守備面の落ち着きがチーム力の安定につながっている。春の関東選手権予選では慶應大、早大と同じブロックを計1失点で1位通過した。

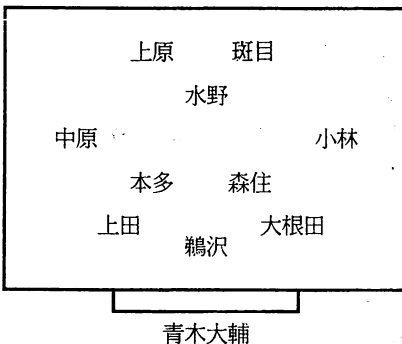
DF鶴沢、MF森住、FW斑目とセンターラインを支える4年生がしっかりしているが、周りを固める下級生も質の高い選手がそろそろ。左右のウイング・MF中原とMF小林の2年生コンビは正確性の高いセンターリングを持ち、トップ下を務める都リーグ得点王・MF水野(2年)のシュート力も注目だ。運動量のあるMF小佐部(3年)が関東大会決勝での退場により出場停止なのは痛い、MF青木大輔(1年)、MF余語(3年)らでカバーするだろう。

厳しいブロックを勝ち上がった関東大会は決勝で立正大に敗れたが、チャレンジ精神を思い出して臨むには妙薬だったかもしれない。

専修大学

最近4年間の成績

- '97 2部リーグ3位(3勝3敗1分)
- '98 2部リーグ7位(2勝4敗1分)
 - 入替戦 VS 流通経済大
 - 0-1で敗退し東京都1部降格
- '99 東京都1部3位(3勝1敗3分)
 - 関東大会予選リーグ敗退
- 2000 東京都1部1位(6勝1敗)
 - 関東大会準優勝で都県2位
 - 入替戦 VS 日大



JR東日本カップ2000 第74回関東大学サッカーリーグ戦

2部	青学大	東海大	法政大	明治大	東農大	亜大	日大	早大	勝	負	分	得点	失点	得失	勝点
1 青学大		100	301	0△0	200	1●2	401	301	5	1	1	14	5	+9	16
2 東海大	0●1		400	1△1	100	402	200	2△2	4	1	2	14	6	+8	14
3 法政大	1●3	0●4		1△1	302	201	1△1	201	3	2	2	10	13	-3	11
4 明治大	0△0	1△1	1△1		2●3	1△1	300	701	2	1	4	15	7	+8	10
5 東農大	0●2	0●1	2●3	302		1△1	302	302	3	3	1	12	13	-1	10
6 亜大	201	2●4	1●2	1△1	1△1		1●2	1△1	1	3	3	9	12	-3	6
7 日大	1●4	0●2	1△1	0●3	2●3	201		1△1	1	4	2	7	15	-8	5
8 早大	1●3	2△2	1●2	1●7	2●3	1△1	1△1		0	4	3	9	19	-10	3

平成12年度 第33回東京都大学サッカーリーグ戦

東京都1部	専修大	東洋大	立正大	國學院	学習院	帝京大	上智大	拓殖大	勝	負	分	得点	失点	得失	勝点
1 専修大		201	0●1	300	201	200	700	201	6	1	0	18	4	+14	18
2 東洋大	1●2		402	1△1	200	402	100	100	5	1	1	14	7	+7	16
3 立正大	100	2●4		400	301	1●2	300	0△0	4	2	1	14	7	+7	13
4 國學院	0●3	1△1	0●4		301	301	300	504	4	2	1	15	14	+1	13
5 学習院	1●2	0●2	1●3	1●3		200	2●3	301	2	5	0	10	14	-4	6
6 帝京大	0●2	2●4	201	1●3	0●2		100	0●2	2	5	0	6	14	-8	6
7 上智大	0●7	0●1	0●3	0●3	302	0●1		100	2	5	0	4	17	-13	6
8 拓殖大	1●2	0●1	0△0	4●5	1●3	200	0●1		1	5	1	8	12	-4	4

関東大学サッカー大会

◆関東大会◆ Aブロック

	桐蔭大	東洋大	立正大	埼玉大	勝点
桐蔭横浜大		200	0●2	900	6
東洋大	0●2		0△0	1●3	1
立正大	200	0△0		100	7
埼玉大	0●9	301	0●1		3

Bブロック

	国武大	専修大	流経大	國學院	勝点
国際武道大		1●2	1●2	300	3
専修大	201		100	701	9
流通経済大	201	0●1		702	6
國學院大	0●3	1●7	2●7		0

決勝戦 立正大 2-0 専修大 (これにより立正大が都県1位、専修大が都県2位となる)

青学大10年振り 1部昇格、慶應大は残留!

1部-2部入替戦

11月5日に行なわれた1部-2部入替戦は、青学大が日体大を2-1で下して1部昇格を決め、慶應大が東海大の挑戦を3-2で退けて1部残留を決めた。0-1でハーフタイムを迎えた青学大は、「リーグ7試合でやってきたことを残り45分で出し切ろうと確認」(上倉監督)して後半で逆転。やはり先制点を許した慶應大も「1部を勝ち取りにいく気持ちで」(大石監督)戦って逆転勝利。2期制1年目のリーグを1部で迎えることとなった。